

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

曾於市長 五位塚 剛

市町村名 (市町村コード)	曾於市 (462174)
地域名 (地域内農業集落名)	岩崎 (梶井,池山,池山中,大園下,内堀,池山上,大園,大園下,西祝井谷,祝井谷,大沢津,南大沢津, 宮原,丸山上,丸山下,岩南,有持下,有持上,虎丸,石之脇,飯塚,西飯塚)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年10月28日 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

区画が小さく、水路の整備されていない水田地帯もあり末端まで水が来ない等により借り手が見つからず耕作放棄地が一部増えてきているため、区画整理による大区画化や水路の整備が課題である。また、管理されていない田んぼにはジャンボタニシやイノシシによる被害も増えており、周辺への被害の拡大も問題となっている。

畑地についてはまとまった団地が地区内にあるが、地域の高齢化も進み担い手の減少も相まって耕作放棄地が増えていることから地域全体で新規就農者を確保・育成しつつ、地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約化することで、遊休農地を増やさないために地域全体での取り組みが課題である。

【地域の基礎的データ】

農業者:343人(うち50歳代以下27人)、団体経営体:19経営体、認定農業者:64人、基本構想水準到達者:18人、畜産農家:52戸

主な作物:水稲、飼料作物、お茶、露地野菜、甘藷

(2) 地域における農業の将来の在り方

担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。

また、お茶農家も多くお茶と露地野菜では農薬散布等の作業時期が違うことから、お互いの区画を集約化することでお互い利用しやすい環境を作っていく。また、有機農業等取り入れることで現在増加しているお茶の輸出も規模拡大を図る。

水田については、市と連携して緊急性のある地区から順次改善に向けた話し合い活動を行っていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	414 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	414 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を考え、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
担い手のニーズを踏まえ、農用地の大区画化・農道の整備(拡幅)を現在の地域計画の地域を細分化して話し合い活動を行って行きたい。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①山に隣接している農地ではイノシシ被害が増加している。目撃情報や被害情報があった際には速やかに対応できる体制を構築することで周辺への被害を防ぐとともに、市の電気柵設置補助金制度等を利用して防除するとともに、捕獲人材の確保・育成を進める。